

## 北信越地区 福井大会 「再発見！愛！」～今こそ信じよう愛の絆

第51回北信越地区高等学校PTA連合会研究大会福井大会は、7月8日（金）・9日（土）の2日間にわたり、福井フェニックスプラザを主会場にして、北信越

5県から1,200名の参加者を得て開催されました。

開会式では、増永哲也実行委員長と牧田和樹全国高P連副会長の挨拶に続き、PTA活動に功績のあった33名に表彰状と越前焼の記念品が贈られました。その後、西川一誠福井県知事、東村新一福井市長から祝辞をいただきました。



歓迎アトラクションでは、福井農林高等学校郷土芸能部が太鼓の演奏を披露しました。会場を包む緩急自在の太鼓の響きに、演奏者と会場の観客とが一体となった濃密なひと時を共有することができました。

当郷土芸能部は、この北信越地区福井大会の1カ月後に行われた今年の全国高等学校総合文化祭でも見事「一位優秀賞」を獲得しました。

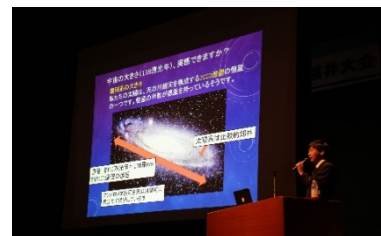
分科会は、市内の4つの会場に分かれて開催されました。高校教育・進路指導・生徒指導・家庭教育とPTAとの関わりをテーマに、合計20本の実践事例発表があり、質疑応答では、参加者と発表者の熱心な討議が展開されました。

1日目を締めくくると教育懇談会は、720名が参加してフェニックスプラザにて開かれました。増永実行委員長の開会挨拶、森近悦治県教育長の祝辞の後、食の国越前・若狭の海山の幸を使った料理と勝山左義長ばやし保存会の皆様による踊りとお囃子を満喫していただきました。

2日目は、「宇宙開発という仕事と意義」と題して、三菱重工工業株式会社宇宙事業部宇宙システム技術部の田辺義慶氏に講演いただきました。

宇宙がどこまで解明されているかということや宇宙開発における現状と日本の進むべき方向について分かりやすく話されました。

また、会場の保護者を意識され、宇宙開発に携わる職業に就くにはどのような進路選択をすればよいか、更には、これからどのような人間が求められるようになるかについて、グローバルな視点から言及されました。これは、中央教育審議会の教育課程企画特別部会で審議されてきた内容と重なるものでありました。



閉会式では、忙しいスケジュールの中を前日夜遅く福井入りされた、全国高P連の佐野元彦会長から挨拶をいただきました。

会長に就任された平成26年度の全国大会が教育県として有名な福井県で開催され、実に立派に運営されたことが今でもとても強く印象に残っている旨のことばを伺って、2年前のことを思い起こした参加者は決して少なくなかったでしょう。

大会宣言では、「子どもたちが高い志や夢を持ち、他者と協働して価値の創造に挑戦し、未来を切り拓いていく突破力を身に付けた自立した人間になるよう育成に努める」ことなどを確認しました。

続いて、次年度開催の富山県の石坂兼人会長から挨拶があり、最後に、増永実行委員長の閉会の挨拶をもって当大会は全日程を無事終了することができました。

会場ロビーでは、県内高校生による物品販売やコンベンションビューローによる県内名産品の販売が行われ、大変盛況でありました。